

令和7年8月1日現在

シ ラ バ ス

事業者名 福島県立ふたば未来学園高等学校

科目名	1. 職務の理解				
項目名	時間数	通 学 時 間 数	通 信 時 間 数	添削課題	講義内容・演習の実施方法等
(1) 多様なサービスの理解	1	1	0		○介護保険サービス（居宅、施設） ○介護保険外サービス
(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解	1	1	0		○居宅、施設の多様な働く現場におけるそれらの仕事内容、○居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的なイメージ（視聴覚教材の活用、現場職員の体験談、サービス事業所における受講者の選択による実習・見学等）、○ケアプランの位置付けに始まるサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ・他職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携
合計	2	2	0		

科目名	2. 介護における尊厳の保持・自立支援				
項目名	時間数	通 学 時 間 数	通 信 時 間 数	添削課題	講義内容・演習の実施方法等
(1) 人権と尊厳を支える介護	3	2	1	第1回	(1) 人権と尊厳の保持 ○個人として尊重、○アドボカシー、○エンパワーメントの視点、○「役割」の実感、○尊厳のある暮らし、○利用者のプライバシーの保護 (2) I C F 内容 ○介護分野における I C F (3) Q O L ○Q O Lの考え方、○生活の質 (4) ノーマライゼーション ○ノーマライゼーションの考え方 (5) 虐待防止・身体拘束禁止 ○身体拘束禁止、○高齢者虐待防止法、○高齢者の養護者支援 (6) 個人の権利を守る制度の概要○個人情報保護法、○成年後見制度、○日常生活自立
(2) 自立に向けた介護	3	1	2		(1) 自立支援 ○自立・自律支援 ○残存能力の活用 ○動機と欲求 ○意欲を高める支援 ○個別性／個別ケア、○重度化防止 (2) 介護予防
合計	6	3	3		

科目名	3. 介護の基本				
指導目標	介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解している。 介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える事ができる。				
項目名	時間数	通 学 時 間 数	通 信 時 間 数	添削課題	講義内容・演習の実施方法等
(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携	1	0.5	0.5	第1回	(1) 介護環境の特徴の理解 ○訪問介護と施設介護サービスの違い、○地域包括ケアの方向性 (2) 介護の専門性 ○重度化防止・遅延化の視点、○利用者主体の支援姿勢、○自立した生活を支えるための援助、○根拠のある介護、○チームケアの重要性、○事業所内のチーム、○多職種から成るチーム (3) 介護に関わる職種 ○異なる専門性を持つ多職種の理解、○介護支援専門員、○サービス提供責任者、○看護師等とチームとなり利用者を支える意味、○互いの専門職能力を活用した効果的なサービスの提供、○チームケアにおける役割分担
(2) 介護職の職業倫理	1	0.5	0.5		職業倫理 ○専門職の倫理と意義、○介護の倫理（介護福祉士の倫理と介護福祉士制度等）、○介護職としての社会的責任、○プライバシーの保護・尊重
(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント	1	0.5	0.5		(1) 介護における安全の確保 ○事故に結びつく要因を探り対応していく技術、○リスクとハザード (2) 事故予防、安全対策 ○リスクマネジメント、○分析の手法と視点、○事故に至った経緯の報告（家族への報告、市町村への報告等）、○情報の共有 (3) 感染対策 ○感染の原因と経路（感染源の排除、感染経路の遮断）、○「感染」に対する正しい知識
(4) 介護職の安全	1	0.5	0.5		心身の健康管理 ○介護職の健康管理が介護の質に影響、○ストレスマネジメント、○腰痛の予防に関する知識、○手洗い・うがいの励行、○手洗いの基本、○感染症対策
合計	4	2	2		

科目名	4. 介護・福祉サービスの理解と医療との連携				
指導目標	介護保険制度や障がい者自立支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。				
項目名	時間数	通 学 時 間 数	通 信 時 間 数	添削課題	講義内容・演習の実施方法等
(1) 介護保険制度	1	0.4	0.6	第2回	(1) 介護保険制度創設の背景及び目的、動向 ○ケアマネジメント、○予防重視型システムへの転換、○地域包括支援センターの設置、○地域包括ケアシステムの推進 (2) 仕組みの基礎的理解 ○保険制度としての基本的仕組み、○介護給付と種類、○予防給付、○要介護認定の手順 (3) 制度を支える財源、組織・団体の機能と役割、○財政負担、○指定介護サービス事業者の指定
(2) 医療との連携 とりハビリテーション	1	0.4	0.6		○医行為と介護、○訪問看護、○施設における看護と介護の役割・連携、○リハビリテーションの理念
(3) 障がい者自立支援制度及びその他の制度	1	0.2	0.8		(1) 障がい者福祉制度の理念 ○障がいの理念、○ I C F (国際生活機能分類) (2) 障がい者自立支援制度の仕組みの基礎的理解 ○介護給付・訓練等給付の申請から支給決定まで (3) 個人の権利を守る制度の概要 ○個人情報保護法、○成年後見制度、○日常生活自立支援事業
合計	3	1	2		

科目名	5. 介護におけるコミュニケーション				
指導目標	高齢者や障がい者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき（取るべきでない）行動例を理解している。				
項目名	時間数	通 学 時 間 数	通 信 時 間 数	添削課題	講義内容・演習の実施方法等
(1) 介護におけるコミュニケーション	3	1.5	1.5	第2回	<p>(1) 介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 <input type="radio"/>相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮、<input type="radio"/>傾聴、<input type="radio"/>共感の応答</p> <p>(2) コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション <input type="radio"/>言語的コミュニケーションの特徴、<input type="radio"/>非言語コミュニケーションの特徴</p> <p>(3) 利用者・家族とのコミュニケーションの実際 <input type="radio"/>利用者の思いを把握する、<input type="radio"/>意欲低下の要因を考える、<input type="radio"/>利用者の感情に共感する、<input type="radio"/>家族の心理的理解、<input type="radio"/>家族へのいたわりと励まし、<input type="radio"/>信頼関係の形成、<input type="radio"/>自分の価値観で家族の意向を判断し非難することがないようにする、<input type="radio"/>アセスメントの手法とニーズとデマンドの違い</p> <p>(4) 利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際 <input type="radio"/>視力、聴力の障がいに応じたコミュニケーション技術、<input type="radio"/>失語症に応じたコミュニケーション技術、<input type="radio"/>構音障がいに応じたコミュニケーション技術、<input type="radio"/>認知症に応じたコミュニケーション技術</p>
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	3	1.5	1.5		<p>(1) 記録における情報の共有化 <input type="radio"/>介護における記録の意義・目的、利用者の状態を踏まえた観察と記録、<input type="radio"/>介護に関する記録の種類、<input type="radio"/>個別援助計画書（訪問・通所・入所、福祉用具貸与等）、<input type="radio"/>ヒヤリハット報告書、<input type="radio"/>5W1H</p> <p>(2) 報告 <input type="radio"/>報告の留意点、<input type="radio"/>連絡の留意点、<input type="radio"/>相談の留意点</p> <p>(3) コミュニケーションを促す環境 <input type="radio"/>会議、<input type="radio"/>情報共有の場、<input type="radio"/>役割の認識の場（利用者と頻回に接触する介護者に求められる観察眼）、<input type="radio"/>ケアカンファレンスの重要性</p>
合計	6	3	3		

科目名	6. 老化と認知症の理解				
指導目標	加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している。 介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解している。				
項目名	時間数	通 学 時 間 数	通 信 時 間 数	添削課題	講義内容・演習の実施方法等
(1) 老化に伴うこころとからだの変化と日常	2	1	1	第3回	(1) 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 ○防衛反応（反射）の変化、○喪失体験 (2) 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響、○身体的機能の変化と日常生活への影響、○咀嚼機能の低下、○筋・骨・関節の変化、○体温維持機能の変化、○精神的機能の変化と日常生活への影響
(2) 高齢者と健康	1	0.5	0.5		(1) 高齢者の疾病と生活上の留意点 ○骨折、○筋力の低下と動き・姿勢の変化、○関節痛 (2) 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点 ○循環器障がい（脳梗塞、脳出血、虚血性心疾患）、○循環器障がいの危険因子と対策、○老年期うつ病症状（強い不安感、焦燥感を背景に、「訴え」の多さが全面に出る、うつ病性仮性認知症）、○誤嚥性肺炎、○病状の小さな変化に気付く視点、○高齢者は感染症にかかりやすい
(3) 認知症を取り巻く状況	2	0.5	1.5		認知症ケアの理念 ○パーソンセナタードケア、○認知症ケアの視点（できることに着目する）
(4) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	1	0.5	0.5		○認知症の定義、○もの忘れとの違い、○せん妄の症状、○健康管理（脱水・便秘・低栄養・低運動の防止、口腔ケア）、○治療、○薬物療法、○認知症に使用される薬
(5) 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2	1	1		(1) 認知症の人の生活障がい、心理・行動の特徴 ○認知症の中核症状、○認知症の行動・心理症状（B P S D）、○不適切なケア、○生活環境で改善 (2) 認知症の利用者への対応 ○本人の気持ちを推察する、○プライドを傷つけない、○相手の世界に合わせる、○失敗しないような状況をつくる、○すべての援助行為がコミュニケーションであると考えること、○身体を通したコミュニケーション、○相手の様子・表情・視線・姿勢などから気持ちを洞察する、○認知症の進行に合わせたケア
(6) 家族への支援	1	0.5	0.5		○認知症の受容過程での援助、○介護負担の軽減（レスパイトケア）
合計	9	4	5		

科目名	7. 障がいの理解				
指導目標	障がいの概念と ICF、障がい者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解している。				
項目名	時間数	通 学 時 間 数	通 信 時 間 数	添削課題	講義内容・演習の実施方法等
(1) 障がいの基礎的理	1	0.5	0.5	第3回	<p>(1) 障がいの概念と ICF <input type="radio"/> ICF の分類と医学的分類、<input type="radio"/> ICF の考え方 (2) 障がい者福祉の基本理念 <input type="radio"/> ノーマライゼーションの概念</p>
(2) 障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴、かかわり支援の理解	1	0.5	0.5		<p>(1) 身体障がい <input type="radio"/> 視覚障がい、<input type="radio"/> 聴覚、平衡障がい、<input type="radio"/> 音声・言語・咀嚼障がい、<input type="radio"/> 肢体不自由、<input type="radio"/> 内部障がい (2) 知的障がい <input type="radio"/> 知的障がい (3) 精神障がい（高次脳機能障がい・発達障がいを含む） <input type="radio"/> 統合失調症・気分（感情）障がい・依存症などの精神疾患、<input type="radio"/> 高次脳機能障がい、<input type="radio"/> 広汎性発達障がい・学習障がい・注意欠陥多動性障がいなどの発達障がい (4) その他の心身の機能障がい</p>
(3) 家族の心理、かかわり支援の理解	1	1	0		<p>家族への支援 <input type="radio"/> 障がいの理解・障がいの受容支援、<input type="radio"/> 介護負担の軽減</p>
合計	3	2	1		

科目名	8. こころとからだのしくみと生活支援技術				
指導目標	介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。				
項目名	時間数	通 学 時 間 数	通 信 時 間 数	添削課題	講義内容・演習の実施方法等
1 基本知識の学習 (1) 介護の基本的な考え方	2	1	1	第4回	○理論に基づく介護（ICFの視点に基づく生活支援、我流介護の排除）、○法的根拠に基づく介護
(2) 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	1.5	0.5	1		○学習と記憶の基礎知識、○感情と意欲の基礎知識、○自己概念と生きがい、○老化や障がいを受け入れる適応行動とその阻害要因、○こころの持ち方が行動に与える影響、○からだの状態がこころに与える影響
(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	1.5	0.5	1		○人体の各部の名称と動きに関する基礎知識、○骨・関節・筋に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用、○中枢神経系と体性神経に関する基礎知識、○自律神経と内部器官に関する基礎知識、○こころとからだを一體的に捉える、○利用者の様子の普段との違いに気づく視点
(4) 生活と家事	2	1	1		家事と生活の理解、家事援助に関する基礎的知識 ○生活歴、○自立支援、○予防的な対応、○主体性・能動性を引き出す、○多様な生活習慣、○価値観
(5) 快適な居住環境整備と介護	2	1	1		支援方法 ○家庭内に多い事故、○バリアフリー、○住宅改修、○福祉用具貸与
(6) 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	4	3	1		移動・移乗に関する基礎知識、さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法、利用者、介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と支援 ○利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法、○利用者の自然な動きの活用、○残存能力の活用・自立支援、○重心・重力の働きの理解、○ボディメカニクスの基本原理、○移乗介助の具体的な方法（車いすへの移乗の具体的な方法、全面介助でのベッド・車いす間の移乗、全面介助での車いす・洋式トイレ間の移乗）、○移動介護（車いす・歩行器・つえ等）、○褥瘡予防

(7) 食事に関する基礎知識、食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援〇食事をする意味、〇食事のケアに対する介護者の意識、〇低栄養の弊害、〇脱水の弊害、〇食事と姿勢、〇咀嚼・嚥下のメカニズム、〇空腹感、〇満腹感、〇好み、〇食事の環境整備（時間・場所等）、〇食事に関する福祉用具の活用と介助方法、〇口腔ケアの定義、〇誤嚥性肺炎の予防	3	1	2	第5回
(8) 睡眠に関する基礎知識、さまざまな睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法〇安眠のための介護の工夫、〇環境の整備（温度や湿度、光、音、よく眠るための寝室）、〇安楽な姿勢・褥瘡予防	2	1	1	
(9) 死にゆく人に関したこころとからだのしくみと終末期介護	3	2	1	
(10) 介護課程の基礎的理解	4	2	2	
合計	25	13	12	

科目名	10. 振り返り				
指導目標	研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。				
項目名	時間数	通 学 時 間 数	通 信 時 間 数	添削課題	講義内容・演習の実施方法等
(1) 振り返り	1	1	0		〇研修を通して学んだこと、〇今後継続して学ぶべきこと 〇根拠に基づく介護についての要点（利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等）
(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修	1	1	0		〇継続的に学ぶべきこと、〇研修修了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における実例（Off-JT、OJT）を紹介
合計	2	2	0		